

蠟梅 Now

年明け早々に開花し、可憐ながらも芳しい香りを漂わせてきた蠟梅も、ほぼ1ヶ月を経るとさすがに落花してしまい、今は瑞々しい青葉に全体が覆われている。振り返ってみると、落葉樹の蠟梅は葉がすっかり落ちてから開花するその様が厳冬の時期と重なって、ひとしお、いじらしさを感じさせるのかもしれない。

米国に端を発した金融危機は、その影響に軽重はあるが、ほぼ全世界をくまなく覆って、まるで生气に乏しい無機質な銀世界の様相を思わせる。そこにあって、吹雪に見舞われねばいいが、そのうち蠟梅に花の咲くがごとく朗報が寄せられ、そこから一気に次々と開花し、待望久しい春の訪れを実感する状況に変化していくことを切望する。英国の詩人シェリーは寒空に舞う枯葉に冬の訪れを感じ *If winter comes, can Spring be far behind?* 「冬来たりなば春遠からじ」と著名な詩句をもって結んでいる。この冬は長いというが、そこで多くを学び来たる春を恵みの多いものにしていかなければならない。

閑話休題。さて、当法人の蠟梅であるが、この時期にあって、これまでとは少々様相が異なる。青葉の中に果実が2種類見える。越年をした茶色のまるで糞虫のような形状の枯れた果実と今まさに結実に向けて成長している初々しい、こちらはまるで緑色の芋虫のような蒼い果実である。これまで結実は隔年のもののように思っていたが、見落としていたのだろうか。併存するのを見るのは初めてのような気がする。蒼い新しい生命が厳しい環境の中で厳しい生存競争に曝されるのを危ぶむかのように、ぶら下がって揺れている枯れた果実達がある。



《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸
事務局長 大森 信
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町 4-2-7
TEL&FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)
E-mail : info@npo-ftfk.or.jp
URL : <http://www.npo-ftfk.or.jp>